



ワシントン日本語学校事務局

Phone (301)962-7410

FAX (301)962-7411



はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

次年度に向けて①

～幼稚園・小学部1年生入学説明会・面接 編～

校長 東間 義孝

本校では今、学年の学習のまとめと次年度への準備が着々と進んでおります。先日は「進学・進級申し込み」をご提出いただき、誠にありがとうございました。皆様の支えがあってこそこの本校だと、改めて感じました。

また先週は、春から新しく仲間入りを希望されている方々に、入学説明会・面接を行いました。緊張した面持ちの中にもキラキラとした瞳を輝かせる多くのお子さまに会うことができ、私共も元気をいただきました。説明会では、本校の概要や海外にある補習校としての学びの特徴、保護者をお願いしたい役割、入学手続き等についてお話ししました。

日本の文部科学省が定める教育課程に基づき、日本語で行われる授業を理解できる日本語力を本校の入学資格としています。これは、「日本語で教科を学ぶことに大きな不安がないこと」を目安としています。日本語が第2言語であっても、母語に近い感覚で使いこなす力が育っていれば問題ありません。



特に、限られた時間の中で、確かな学びを保障するために、私たちは「共働学習」を何よりも大切にしていることを、一番にお伝えしました。

授業では、子ども同士が考えを日本語で伝え合い、学び合う本校独自のアクティブラーニングを通して、学習内容の理解を深めています。また、家庭との「共働学習」として、学習計画表等を通じて学校での学びや課題・宿題の内容を共有し、保護者の皆様と一緒にお子さまの成長を支え、促すこともご理解いただきました。

併せて、ご家庭でも日本語を使う機会を増やしていただくことや、本校図書館をご利用するなどして日本語の本に親しむ時間を大切にさせていただくことなど、日本語に触れる環境づくりへのご協力もお願いしました。海外で生活する子どもたちにとって、日本語で学ぶ力は、一朝一夕に身に付くものではありません。現在在籍されている保護者の皆様と同じように、学校と家庭が手を取り合い、お子さまの学びや成長を支えていければと願っています。

4月、新たに仲間となる子どもたちの元気な笑顔に出会える日を、心から楽しみにしております。



米国日本通運株式会社は2022年1月より、
社名を**NXアメリカ株式会社**へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカ ワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)

URL: <http://www.nittsu.com/hikkoshi>



次年度に向けて②

～教材選定会議 編～

先生方も、次年度に向けた準備を始めました。次年度の学習を充実させる効果的な副教材等について、今年度実践の状況を踏まえたり、本校幼～高の13年間を見通したりして、検討を行いました。

4月からの新年度授業開始にできるだけ間に合うように、日本への発注を急ぎたいと思います。

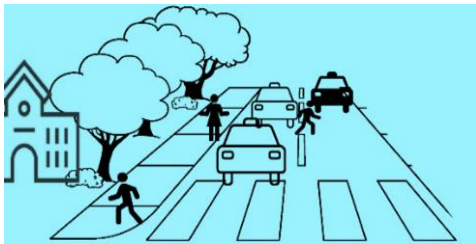


「ヒヤリハット防止に向けて」

～「車の進行方向右側ドアから乗降」を！～

「ピックアップ/ドロップオフエリア」での安全に関わり、子どもたち(特に小2～小4)に次のように指導しています。

★必ず車の「進行方向右側のドア」から乗降する。



＊車を追い越す際は、児童の乗降・動きに十分注意してください。

★ピックアップ/ドロップオフ待機室でも、教室と同じように、落ち着いて過ごしましょう。

ご家庭のご理解とご協力をお願いいたします。

今年のワシントン新春祭りは中止に！

既にご存じかとは思いますが、寒波に伴う降雪等予報が出ていることから、明日1月25日(日)の2026ワシントン新春祭りは、残念ながら中止となりました。

チケットの返金対応等は、ワシントン日本商工会様からの連絡をお確かめください。

日本の教育は今 Vol.5

生成 AI と学校教育…

近年、文章や絵を自動で生成する AI が急速に普及し、私たちの生活や業種によっては、重要かつ欠かせないものになってきています。

一方、作品などが、本人の力によるものを適切に判断することが難しくなり、一部の作文や創作に関わるコンテストでは、公平性や教育的意義の観点から、見直しを迫られる動きも見られます。

日本では、文部科学省から義務教育段階での子どもの育みにおいて、「答えを得るための道具」ではなく、「考えを深め、表現を磨くための補助的な道具」としての活用が有効との指針や留意点が示されています。

<参考:文部科学省 関連サイト>

・学校現場における生成 AI の利用について

<https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/ai/>

・情報モラル教育ポータルサイト

https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/?CAMVID=hQETGeigedF&cid=1&uns_flg=1&urlmid=11242010&CAMSID=ddqETGEGedf-95&CAMCID=hgulsikBZ-018&adtype=mail

保護者や学校は、「使う／使わない」を二択で考えるのではなく、子どもの育みにどう生かすかという視点が重要ではないでしょうか。

①「答えを出す道具」ではなく、「考えを深める道具」に

自分の考えを整理する、表現をよりよくするヒントを得る、視点を広げる等、こうした補助的な使い方が、学びにつながります。

②「使ってよい場面」と「自分の力で取り組む場面」を分ける

学びの中には、自分の言葉で考え、書き、表現することが目的の場面、情報を集めたり、考えを整理したりする場面があります。すべてを AI に任せるのではなく、目的に応じて使い分ける力を大人が示す。

③大人が「見守り役」になる

どう使ったのかを話し合う、その内容を自分の言葉で説明させる、「本当に自分の考え？」と問い返す、こうした関わりが、思考力や判断力を育てます。

④生成 AI 時代だからこそ大切になる力

すべてを AI に任せるのではなく、目的に応じて使い分ける力を大人が示すことが大切です。自分の考えを持つ力、体験や感情を言葉にする力、正しさや信頼性を見極める力、道具を責任をもって使う態度…

本校は、日本と異なり、一人1台端末を使った学習は行えません。また、授業日も限られていることから、活用に向けた「情報モラルやメディア・リテラシーの指導」は、現地校で行われていることが前提となってしまいます。本校に関わる活用については、授業日ではなく、家庭での課題や宿題、日本語習得に向けてなどが想定されます。学びを深めるために、どの段階から、どう使うことが良いのか、前向きに考えて行きたいと思います。